

「サテライト企画」開催報告

若手イノベーション委員会 中村亮介(京都大学), 原将也(神戸大学), 他委員一同

若手イノベーション委員会では、2023年6月25日のJASTE33高知大会にて、サテライト企画【“研究と社会をつなぐ”をリアルに！～生態学者がアプリをつくる～】を開催しました(写真1)。株式会社BIOMEの藤木庄五郎氏(CEO)にご講演いただき(写真2)、ハイブリッド開催で総勢52名(現地35名, オンライン17名)が参加しました。

講演の中では、解決すべき課題、問題意識として、生物多様性の保全、生物種の減少が挙げられました。博士課程在学時の藤木氏のボルネオ島のフィールド調査や、衛星画像と組み合わせて生物多様性を解析した経験、またその研究から感じた現地データ収集がボトルネックになって社会実装が難しいといった現実に向き合った経験が語られ、それらは現在の株式会社BIOMEの立ち上げに繋がっていきました。

現在の事業についても、種同定アプリBIOMEの開発裏側をお話し頂きました。スマホ・アプリを使用したデータ収集に着目し、多くの個人からデータを集める方法を考え、写真を撮って同定するAIの開発に挑戦されています。今ではリアルタイムで生物を監視するシステムとして機能し、さまざまな機関、自治体と連携しながら生物保全に取り組まれています。

世界的に環境問題が深刻なリスクになる中、気候変動と生物多様性に対して、かつてないほどの注目が集まっています。今後、社会がその仕組みを作っていくうえで、生物多様性について理解した人材が必要となってきたことについても、実体験をもってお話し頂きました。

講演後には多数の質問があり、活発な議論が繰り広げられました。佐々木幹事長による終わりのあいさつでは、生物多様性について、危機感をあおる暗い



写真1 現地の様子(河合氏撮影)。



写真2 講演する藤木氏(中村氏撮影)。

話が多い中、それだけではなく、今後どうしていけばいいのか、未来をみながら明るい方向で生物多様性について考えることができる良いきっかけとなったとの感想が述べられました。

企画に参加した学生からも、これまでない新たな視点から熱帯生態学を学ぶ重要性に気づいたことなど、好意的な意見が数多く寄せられました。若手イノベーション委員会では、若手研究者の効果的な支援を目的とし、引き続き若手会員を中心としてさまざまな活動に取り組んでいく予定です。